

# 大学生のコミュニケーション力の現状と課題について ～地域スポーツコースに着目して～

河野 啓太 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)  
指導教員 中道 莉央

キーワード：コミュニケーション，大学生，スポーツ

## 1. 諸言

近年，インターネットの普及等によりコミュニケーションの取り方が変化している（安齋, 2006）．特に若い人たちのコミュニケーションスキルは低下傾向にあり，学生のコミュニケーション技能の向上は教育目標の一つとなっている（後藤・大坊, 2003）．

そこで，本研究では，地域とスポーツについて学ぶ，地域スポーツコースに属す学生のコミュニケーション力の実態とコミュニケーション力を高めるためにどのようなことを望んでいるのかをまとめる．そこから地域スポーツについて学ぶ学生のコミュニケーション力を高め社会に貢献できる人材を育成するための私論を述べることを目的とした．

## 2. 研究方法

B 大学地域スポーツコースに所属する2年生53名（男 n=37, 女 n=15, 19.7±0.91 歳），3年生44名（男 n=30, 女 n=14, 20.7±0.87 歳），4年生37名（男 n=28, 女 n=9, 21.7±0.92 歳）を対象に，2017年10～11月の期間にアンケート調査を行った．設問は橋本ら（2015）を参考にコミュニケーション力の実態を推し量る30問と，コミュニケーションへの意識に関する28問を設定した．

## 3. 結果と考察

「どのような人がコミュニケーション力が高いと思いますか」では，「明るい」「自ら話しかける」「聞き上手」の順に回答が多いことがわかり，重要なのは話す内容よりも印象のほろが重要と感じていることが推察された．

表1 コミュニケーション力の実態（学年別）

	2年生	3年生	4年生
コミュニケーション行動全般	2.03±.39	2.03±.44	2.04±.44
気持ちを受け止める力	2.59±.39	2.59±.44	2.55±.44
状況判断能力と臨機応変さ	2.74±.39	2.74±.44	2.63±.44
コミュニケーション技術	2.59±.39	2.59±.39	2.58±.44
働きかける力	2.49±.48	2.47±.41	2.59±.41

コミュニケーション力の実態を学年別で見たところ，有意な差は認められなかった．しかし，男女別のコミュニケーション技術（男 2.87±.65, 女 2.63±.52），気持ちを受け止める力（男 2.18±.47, 女 1.96±.64）で有意な差が認められた（ $p=.05$ ）．また，保護者以上の年齢の人との同居の有無（祖父母との同居を想定）別において，同居あり（2.25±.66）が同居なし（2.06±.47）よりも有意に受け止める気持ちが高いことが明らかとなった（ $p=.01$ ）．

## 4. まとめ

年齢の異なる多様な人とコミュニケーションを取っている人の方がコミュニケーション力が高いことがわかり，コミュニケーション力を高める授業を取り入れる際には高齢者など多様な地域の人材との交流機会を保障することが望ましいと考えられた．また，男女の特性を意識し，特に女子に対してコミュニケーションを積極的に行う重要性や理解を深めさせることが重要だと指摘できた．

## 主な引用・参考文献

安齋徹（2016）大学生のコミュニケーション力の現状と向上への取り組み．下田歌子研究所年報 女性と文化，2:52-77.  
後藤学・大坊郁夫（2003）社会スキルを学ぶ．川島書店，東京：pp. 173-175.